

第3学年 体育科学習指導案

令和6年1月24日(水) 3校時
 指導者 T1;渡辺 勝久(2組担任)
 T2;橋本 吉修(1組担任)

1 単元名 テニピンのゲームを楽しもう

2 単元の目標

- テニピンのやり方を知るとともに易しいラリーゲームをすることができる。 【知識・技能】
- テニピンのラリーゲームを続ける上で、気づいたことや考えたことを友だちに伝えたり、自分の動きに生かしたりすることができる。 【思考・判断・表現】
- 練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守り友だちと仲よく活動したり、場や用具の安全に気をつけたりすることができる。 【学びに向かう意欲・態度】
- 友だちと積極的にコミュニケーションを図り作戦を立てたり、チーム力を高めたりすることができる。 【キャリア教育の視点】

3 単元計画 (本時3/4)

次	時	主な学習活動
1	1	学習の進め方を知り、学習の見通しをもつ。
	2	ラリーを続けるための打ち方を考える。テニピンゲームのルールを知る。
2	3	テニピンのゲームでラリーが続く方法を考え、プレーを楽しむことができる。(本時)
	4	テニピンのゲームを楽しむことができる。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

テニピンのゲームでラリーが続く方法を考え、プレーを楽しむことができる。

(2) 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	教師の支援(・)と評価(○)
1 準備運動と場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打つ機会を多くするために、色別にコートとバーで練習場所を自分たちで作らせる。 ・ラリーを続けられるように、ペア・3人組でいろいろな打ち方を練習し、ボールの扱いに慣れる。 ・ラリーを続けられるように、打つ力加減や振る速さについてアドバイスする。
2 スキルアップタイム ①表で5回 ②裏で5回 ③表裏交互に10回 ④ボール止め ⑤頭より高く打つ 等	
3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ラリーを続けて自分たちベストを作ろう。</div>	
4 ラリーを続けるコツを話し合う。 Ⓢはじめは下から打ってスタート。 ・ラケットの方に打つ。 ・ボールのところに走る。 ・力いっぱいふらない。	<ul style="list-style-type: none"> ・コツを見つけることができるように、ラリーが続いているペアを紹介し、参考にさせる。 ・この後、自分たちベストを出すことができるよう、友だちの意見をよく聞いて生かすよう声をかける。 ・話し合った「ラリーを続けるコツ」を意識しながらゲームできるよう、声をかけ、励ます。
5 ラリーゲームをする。	
6 本時をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちベストを更新しようという気持ちを起こすために、回数をアナウンスすることで、友だちのペアの記録を聞くことができるようにする。 ○ラリーを続けることができたかを評価する。

5 授業の実際

視点②なりたい姿に向かう「基礎感覚や基本技能を高めていくための手立て」の追求

はじめに、準備運動として各自が事前に作成した“マイラケット”を使い、ペアまたは3人組でラケットを使ってボールを扱う技（レベル1；表で5回連続打つ。レベル2；裏で5回打つ。レベル3；表裏交互に10回 等）に取り組ませた。

次に、児童を集めて「ラリーを続けて自分たちベストを作ろう」という本時のめあてを確認し、ラリーを続けるコツについて話し合った。（写真①）これまでの経験を思い出したり、ラリーが続いているペアを見学したりすることで、力加減やボールをねらう場所等のコツを児童から発見させた。



写真①ラリーを続けるコツを話し合う。

そして、話し合いの中で出てきたコツ、①ラケットの真ん中で打つ、②力を加減して打つ、③ラリーが続くポイントを話し合う等を意識して、今日の「自分たちベストを作ろう」と呼びかけ、ラリーゲームを行った。

ラリーゲームを行っている間、ラリーの回数をカウントして児童全員に聞こえるようにした。そうすることで児童は夢中でボールを追っていた。ボールの扱いに課題は見られたが、自分たちベストを作ろうと一生懸命活動することができた。（写真②）

数分ラリーゲームを行った後、集合場所に児童を集め、ラリーを続けるコツについてさらに何か気づいたことがないか投げかけた。児童からは、「相手のいるところに打つ」という意見が出た。その後、出されたアイデアを生かして、後半のゲームをするようにアドバイスした。



写真②カウントを聞きラリーを続ける。

ゲーム終了後、片付けをし、全体で「本日のめあて」の振り返りをした。あわせて今後の活動予定を伝え、授業を終えた。

6 成果と課題

成果としては、まずテニピン本来の競技の楽しさを十分に味わうことができたことであると考える。事前にテニピンをすることを予告してから児童は授業をとっても楽しみにしており、ラケットの準備にも積極的に取り組むことができていた。他校から借りたボールを使ってみて、その跳ねる様子やラケットに当たって飛ぶ様子を体感することで、テニピンの魅力をさらに感じ熱中していったように感じる。

そして、今回は得点を取り合うゲームではなく、ラリーを続けて自分たちベストを作る、というラリーを続ける楽しさを求めたことで、運動が苦手だと感じている児童も自分たちベストを目指して楽しむ様子が見られた。

また、場づくりの面では、コーンとバーを使って体育館全面にコートを作り、待ち時間なく全員が同時にプレーをするようにしたことも、テニピンをしっかりと楽しめた一つの要因と考えられる。

課題としては、運動経験の少なさからかボールの扱いが難しい児童が見られたこと、また事前に段ボールを準備する、ボールを借りる等の事前準備が多く感じられ、気軽に取り組むことに難しさを感じたことだった。どの児童もボールの扱いに慣れるためには、テニピンボールに触れる機会を増やしていくのも一つの方法だと感じた。